

2021年度（第20回）日本数学会 解析学賞候補者 推薦のお願い

“解析学および、解析学に関連する分野において著しい業績をあげた研究者に対し、その業績を顕彰する” 目的で解析学賞が設置され、2002年度から運営が始まりました。この賞の授与も既に20回を数えるに至りました。昨年度の第19回の受賞者は、

二宮 広和, 松本 健吾, 宮地 秀樹

の各氏でありました。2020年度の日本数学会年会(於 慶應大学)がオンラインで開催され、これらの受賞講演が開催されました。

2021年度(第20回)日本数学会解析学賞(以下、解析学賞と称する)受賞候補者の推薦を下記の要領で募集いたしますので、ご推薦下さいますようお願いいたします。(2015年度より、名称が「日本数学会解析学賞」に変更されました。内規により、推薦委員が選ばれることになっておりますが、これは一定数の候補者を確保するための処置であり、推薦委員から推薦された候補者が、選考において優先されることはありません。)2021年度(第20回)の受賞者の発表は、2021年度秋季総合分科会(於 千葉大学)の折に行われる予定です。

- (i) 推薦対象: 過去5年間程度の間、広い意味での解析学に関連した分野において著しい業績をあげた、日本数学会会員(詳細については、解析学賞ホーム・ページ <http://mathsoc.jp/prize/a-prize/> の解析学賞基金規定および内規を参照)
- (ii) 推薦者: 推薦出来るのは日本数学会会員とする。また他薦に限る。
- (iii) 推薦書: 用紙は A4 紙を用い、以下の項目について記載すること。
 1. 候補者氏名・所属・職階または称号(名誉教授など)・会員番号
 2. 略歴(分かる範囲でよい)
 3. 業績の題目
 4. 推薦理由
 5. 受賞候補としての業績に関する論文リスト
 6. 受賞候補者の業績を良く知っている2-3名の方の氏名、所属、電話番号、電子メールアドレス
 7. 推薦者氏名・所属・職階または称号(名誉教授など)・会員番号・連絡先

注意. 選考は提出された推薦資料に調査・検討を加えて行われる。たとえ被推薦者の重要な業績であっても、推薦書に書かれていない場合は、それが審査において考慮されない場合も起こりうることになる。従って、推薦書の作成には十分配慮し、(重要な国際会議等での招待講演等も含めた)候補者の業績が明確に分かるように作成されることが望まれる。

- (iv) 推薦締め切り: 2021年6月7日(月)(締切日必着)
- (v) 推薦書送付先: 〒819-0395 福岡市西区元岡744
九州大学大学院数理学研究院数学部門
日本数学会解析学賞事務局
廣島 文生 hiroshima(at)math.kyushu-u.ac.jp
- (vi) 送付方法: 郵送を原則とするが、海外からの送付など事情がある場合には電子メールによる推薦書送付も受け付ける。その場合は、あらかじめその旨を事務局まで連絡の上、送付について配慮を期すること。

(文責) 日本数学会解析学賞事務局 廣島 文生